

長野市中心市街地の道路整備からみた鐘鑄堰の暗渠化の変遷

令和 4 年 8 月 平野 舞

要旨

目的

近年、水路のもつ多面的な役割が着目され、関心が高まっている。しかし、多くの地域で時代の変遷によって水路が暗渠化され、人々の水路への関心がなくなっている。本研究では、長野市中心市街地を流れる鐘鑄堰を対象とし、道路整備からみた鐘鑄堰の暗渠化の変遷を明らかにすることを目的とする。

方法

既往論文および「広報ながの」をもとに、長野市中心市街地がどのように都市化され、道路整備がなされたのかを整理した。そして、年代の異なる複数の住宅地図を用いて、鐘鑄堰の暗渠化が行われた年代や場所を確認し、これらから鐘鑄堰の暗渠化に対して長野市中心市街地の道路整備がどのように関係してきたのかを検討した。

結論

長野市中心市街地の道路整備は明治時代から行われていたが、総合的な道路計画による整備は大正時代に入ってから着手された。そして、昭和に入り、交通量の増加による市街地の道路整備が課題となり、計画・実行された。それにともない、鐘鑄堰の暗渠化も、戦後の昭和 30 年代以降、中央通りから東西に広がるように徐々に行われた。また、主要な道路では、拡張工事後にさらに幅員を増やすため暗渠化するという 2 段階の整備が確認された。

以上のことから、長野市中心市街地を流れる鐘鑄堰の暗渠化は、道路の拡幅による影響を大きく受けたといえる。

指導教員 豊田 政史 准教授